

SPECIAL ISSUE : 地域に学ぶ観光教育・研究の実践
実践論文

ねりんピック紀の国わかやま 2019 でのサプリメント観光 ツアー開発と参加者のツアー満足と心理的経験についての関連性

Development of supplemental tourism itineraries and relationships between tourism satisfaction and psychological experience at the Nenrinpic Kinokuni Wakayama 2019

伊藤 央二

Eiji Ito

和歌山大学観光学部准教授

キーワード：サプリメント観光ツアー、感情評価理論、実践型教育プログラム、スポーツツーリズム、ねりんピック紀の国わかやま 2019

Key Words : supplemental tourism itineraries, affect valuation theory, educational program for practical skills, sport tourism, Nenrinpic Kinokuni Wakayama 2019

Abstract :

Wakayama Prefecture hosted the 32nd National Health and Welfare Festival, Nenrinpic Kinokuni Wakayama 2019 in November 2019. This sporting event is an annual festival of sports competition and cultural activities by older persons aged 60 or over. As the cumulative total number of participants was 559,600, this participant sporting event was a great opportunity to promote Wakayama Prefecture as a tourism destination. The author collaborated with the Wakayama Prefectural Government and travel companies to conduct an educational program for practical skills at the Faculty of Tourism, Wakayama University in order to develop and guide supplemental tourism itineraries for the event participants. The purposes of this article were (a) to report the activities of the educational program for practical skills, and (b) to examine relationships between participants' tourism satisfaction and psychological experience. The results were discussed in light of practical (industry-academia-government collaboration) and theoretical (affect valuation theory) implications.

I. 緒言

2019年11月9日～12日にかけて、和歌山県では60歳以上の人々が中心となってスポーツや文化などのイベントで交流を深める「第32回全国健康福祉祭和歌山大会 ねりんピック紀の国わかやま2019」（以下、「ねりんピック2019」とする）が開催された。ねりんピックとは、全国健康福祉祭の愛称であり、「スポーツや文化種目の交流大会を始め、健康や福祉に関する多彩なイベントを通じ、高齢者を中心とする国民の健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚を図り、ふれあいと活力ある長寿社会の形成に寄与するため、厚生省創立50周年に当たる昭和63（1988）年から毎年開催」されている参加型スポーツイベントである（厚生労働省, n.d.）。このスポーツイベントには全国から延べ約56万人が参加し（ねりんピック紀の国わかやま2019大会実行委員会、2020）、

来県される参加者へ和歌山県の魅力を発信する絶好の機会となった。この機会を活かし、筆者は、和歌山県福祉保健部福祉保健政策局ねりんピック推進課（以下、ねりんピック推進課とする）およびねりんピック紀の国わかやま2019宿泊・輸送センター（以下、宿泊・輸送センターとする）と協働し、大会参加者に提供する観光ツアー開発を目的とした和歌山大学観光学部生を対象とする実践型教育プログラムを実施した。なお、宿泊・輸送センターとは、JTB、日本旅行、近畿日本ツーリスト関西、名鉄観光サービスの4社共同企業体であり、経験豊富な旅行会社の実務家で構成されている。ねりんピック推進課および宿泊・輸送センターの担当者と協議の上、2018年度は「ねりんピック2019参加者に対する観光ツアーの開発」、2019年度は「ねりんピック2019における、観光ツアー同行を通じた観光業務の実践」というプログ

ラムテーマを設定した。

このようなスポーツツーリストの大会参加に付随する観光行動は、主目的の観光行動を補完する「サブメンタル観光行動」と呼ばれ、全体的な観光高満足度を高めることに貢献する（伊藤, 2020）。具体的に、伊藤（2020）はスポーツを文脈とした以下の3通りのサブメンタル観光行動を挙げている。

1. 「スポーツからスポーツへ」: スポーツ参加や観戦が主目的な観光客を、異なるスポーツ参加や観戦に誘導する（e.g., 大阪マラソン参加者をJリーグ観戦に誘導する）。
2. 「非スポーツからスポーツへ」: スポーツ参加や観戦が主目的ではない観光客を、スポーツ参加や観戦に誘導する（e.g., ショッピングを目的に訪日したインバウンド観光客を大相撲観戦へ誘導する）。
3. 「スポーツから非スポーツへ」: スポーツ参加や観戦が主目的な観光客を、スポーツに関連のない観光行動に誘導する（e.g., スキー目的で訪日したインバウンド観光客をショッピングや観光地巡りに誘導する）。

Nogawa, Yamaguchi, and Hagi (1996) も、スポーツイベント参加者のイベント参加に付随する観光行動と観光消費の傾向から、彼らがアクティブなツーリストになる可能性を指摘している。工藤・野川（2004, p. 16）も同様に「スポーツイベント参加後に、開催地の特産品を土産として購入し、名所・旧跡を訪れ、郷土料理を味わい、地酒に舌鼓を打ち、温泉で体を休める等の活動に魅力を感じる参加者も相当数いる」ことを報告している。国内のスポーツツーリズムだけではなく、国外のイベント学においても、イベント参加に付随する観光の重要性が経済効果の視点から以下の通り指摘されている。

「レバレッジ」戦略の目的は、長期間にわたり、イベントからより大きな経済的利益を生み出し、それらをより広範囲に波及させることである。これは、イベント前後の観光の促進、旅行日程の拡大によるイベント訪問のパッケージ化、アトラクションとデスティネーション間の共同マーケティングを通じて実現可能である。（Getz & Page, 2016, p. 365）

レバレッジ戦略の有効性はスポーツツーリズムの文脈でも報告されており（Chalip, 2006）、スポーツイベント開催都市のさまざまな観光アトラクションを組み合わせたバンドリング戦略（Chalip & McGuirty, 2004）も同様に注目されている。つまり、サブメンタル観光行動は、これらのレバレッジ戦略およびバンドリング戦略を企画立案し、実行するうえで、欠かすことのできないピースだと言える。

上記の研究者らが指摘するように、スポーツイベントを開催する際に、主目的の観光行動を補完するサブメンタル観光行動を促進することは、参加者の大会全体の満足および開催地の経済効果を高めるために重要であると考えられる。特に、ねんりんピックのような高齢者が参加するスポーツイベントでは、参加者個人に頼るのではなく、主催者が観光ツアーを事前に用意することが、効果的であると報告されている（児嶋・伊藤・

吉村・藤森・坂本, 2019）。しかしながら、今回のねんりんピック2019が、産学官が連携してサブメンタル観光ツアーを開発した初のねんりんピックであったように、サブメンタル観光ツアー開発について学術的知見は非常に限られ、実践型教育プログラムの一環として用いられたという報告はほとんど見当たらない。加えて、どのようなサブメンタル観光ツアーがねんりんピック参加者のツアー満足度を高めるかを理論的に明らかにすることが学術的ならびに実践的に求められていることが推察される。そこで、近年スポーツツーリズム研究で注目を浴びる感情評価理論（Tsai, 2007）を援用して、ツアー参加者の満足度と心理的経験の関連性について検証することとした。以上のことから、本実践論文では、①実践型教育プログラムの活動内容（ねんりんピック2019サブメンタル観光ツアー開発とツアー同行）について報告すること、②ねんりんピック2019サブメンタル観光ツアー参加者のツアー満足度と心理的経験の関連性について明らかにすること、の2点を研究目的とした。

II. サブメンタル観光ツアーの開発とツアー同行について (研究目的①)

1. 2018年度の活動：サブメンタル観光ツアーの開発

サブメンタル観光ツアー開発の具体的な動きは、ねんりんピック2019が開催される1年半以上前の2018年4月から始まった。ねんりんピック推進課および宿泊・輸送センターの担当者と事前打合せを複数回行い、和歌山大学観光学部の実践型教育プログラムである地域インターンシップ（LIP: Local Internship Program）を活用して、サブメンタル観光ツアー開発に興味を持つ学部生を募ることにした。その結果、1回生1名と2回生8名の計9名が本プログラムに参加することになった。プログラムの始まりとして、宿泊・輸送センターの担当者およびねんりんピック推進課や観光推進課の方々に、ねんりんピックの概要、観光ツアー開発の一般的規則、和歌山県の観光資源などに関する講義を行っていただいた。その後、参加学生を3班（紀北、紀中、紀南）に分け、それぞれのエリアで日帰りツアー4件、宿泊ツアー1件の開発を行うことにした。夏休み中の2018年9月には、各班でねんりんピック推進課および宿泊・輸送センターの担当者と開発ツアー目的地の視察を実施した。事前に各班で、インターネット検索や和歌山県観光情報冊子を通して、観光ツアーに組み込む候補地を選出し、ランチやお土産屋の場所等も踏まえながら、現地視察を行った。その後、現地視察等の結果を基に開発したサブメンタル観光ツアーを、宿泊・輸送センター、ねんりんピック推進課、観光課の担当者および筆者に対して発表し、産学官の各視点からのフィードバックを通し、ツアー内容を洗練させた。最終的に各班が日帰りツアー2件、宿泊ツアー1件のツアー企画を開発し、ツアー内容のプレゼンテーションを宿泊・輸送センター、ねんりんピック推進課、観光課の担当者および筆者に行った。

実践型教育プログラムを通して開発したサブメンタル観光ツアー 15 件の中から、宿泊・輸送センターの担当者が、観光ツアー商品として十分なレベルにある 4 件を選出し、レイアウト等の微修正を行い、「和歌山大学観光学部 学生提案プラン」としてねんりんピック 2019 参加者に配布する観光ツアー案内リストに掲載した。なお、全体の観光ツアー数は、日帰りツアー 10 件と宿泊ツアー 3 件の計 13 件であり、そのうち 4 件が「和歌山大学観光学部 学生提案プラン」となった(図 1 参照)。また、その 4 件のうち 2 件(ツアー A とツアー B)を「和歌山大学観光学部学生同行」ツアーとして募集を行った。図 2 から図 5 には、「和歌山大学観光学部 学生提案プラン」の実際の募集概要 4 件(ねんりんピック紀の国わかやま 2019 宿泊・輸送センター, 2019)を示した。

2. 2019 年度の活動：サブメンタル観光ツアーの同行

2019 年度に入り、継続型の実践型教育プログラムとして、1 回生 7 名と 3 回生 4 名の計 11 名が活動することになった。3 回生の 4 名は、2018 年度からの継続メンバーであった。まずは、2018 年度と同様、ねんりんピック推進課および宿泊・輸送センターの担当者から、ねんりんピックの概要や観光ツアー同行の一般的規則、和歌山県の観光資源などに関する講義を行っていただいた。夏休み中の 2019 年 8 月と 9 月には、同行予定の観光ツアー A と B の下見をねんりんピック推進課と宿泊・輸送センターの担当者と共に実施した。ツアー当日の担当予定の語り部さんにも下見に参加してもらい、同行学生はツアー参加者からの質問に答えられるよう準備を行った。しかしながら、観光ツアー B に関しては申込者数が最少催行人数に満たず、中止となってしまった。そこで、観光ツアー B の代わりに同行予定ではなかった「和歌山大学観光学部 学生提案プラン」ツアー C に同行することにした。なお、ねんりんピック 2019 の観光ツアーで催行された 4 プランのうち、3 プランが実践型教育プログラムを通して開発した「和歌山大学観光学部 学生提案プラン」であった。

観光ツアーの当日は、同行学生はねんりんピックボランティアのオレンジのジャケットを着用し、最初から最後までツアーに同行し、ツアー終了時にツアー参加者を対象とした質問紙調査を実施した。ねんりんピック 2019 の閉会後には、ねんりんピック推進課および宿泊・輸送センターの担当者から全体のプログラムを通したフィードバックをいただいた。そのフィードバックを踏まえ、本プログラム内容をポスターにまとめ、2020 年 2 月に開催された 2019 年度 LIP 合同活動報告会にて発表し、2 年間にわたった本実践型教育プログラムを終えた。

3. 参加学生のプログラムの評価

下記は本教育型実践プログラムに対する参加学生の評価(直接引用)である。

- ・実際にツアープランを考え、県庁の方、[宿泊・輸送セン

ター]の方に話すことは非常に緊張した。話し方、書類のみやすさ、さまざまな点で講義では得られない経験ができて良かった。

- ・観光プランを考えるにあたり、観光地を調べることで和歌山の観光地に関する知識が増えた。実際に観光プランを考えるのは初めてでプランを考えることの難しさを知った。
- ・スポーツツーリズム・スポーツイベントについて学ぶために和歌山大学に来たので、非常に良い内容のプログラムであった。県庁や[宿泊・輸送センター]の方からのフィードバックは実際に働いている方からの目線ということで強く響いた。他者にプレゼンテーションを行う際の注意点などの学びを得ることができた。
- ・これまで和歌山について学ぶ機会が多くあり、今回はそれを十分に発揮する機会でもありました。それでも知らなかった和歌山がまだ多くあり、細かいところや潜在していた部分の発見は興味を引きました。旅行に関する知識も[宿泊・輸送センター]の方、県庁の方等から直接指導していただいたり、アンケート結果を提供していただいたり、現場で働いている方と接触できたこともより現実を把握し身を以て実感することができました。また、メンバーとの長期にわたる協働において根拠を持った意見の提示の大切さや、多方面からのアドバイス・ヒントを生かすことを特に重視して考えるようになりました。
- ・LIP の活動は正解・不正解があるわけではなく多くの人が 1 つの目標に向かって同じ目的意識を持って取り組むことができ、自分一人では難しかったこともアドバイスをもらいながら進めていくことができ、有意義な時間を過ごすことができました。
- ・今まで他の授業で観光プランを考えるというのはありましたが、選ぶ場所もインターネットや本を見て気に入った場所や、評価が高い場所を選んで終了というものが多かったように感じます。しかし、今回の LIP では実際に自分が担当するエリアを訪れ、それを基に考え、同じ担当エリアの学生とより良いプラン実現に向けて意見が出し合えたことは非常に良かったです。
- ・今回の LIP 参加で県庁や[宿泊・輸送センター]の方々の意見を基に実際にツアーを企画することができてより実践的な力を身につけることができました。また、ツアーを企画する過程で地域の観光資源の知識不足を感じた。これからの授業では観光資源や観光商品作成の知識を深めて行きたい。
- ・ねんりんピックの参加者は 65 歳以上の方々と、自分たちとは異なる年齢層のお客さんにどうやって満足していただくか、など多くのことを考えながら企画やツアーの下見を行いました。私たちは日頃観光学について学んでいますが、今回の様により実践的な体験ができることこそ、LIP の強みだと感じました!



観光ツアーのご案内（募集型企画旅行）

「ねんりんピック紀の国わかやま2019」ご参加の皆様のために企画した観光ツアーです。和歌山県各エリアの人気観光地を訪れる日帰りコースと、人気スポットを周遊する1泊2日コースを全13コース、ご用意しました。

今回の企画では国立大学で唯一、観光学部が創設されている「和歌山大学観光学部」の学生たちにご協力いただき、4コース設定いたしました。

「和歌山大学観光学部 学生提案プラン」と銘打ったこちらのコースは、学生たちが学びを活かして提案してくれた内容となっております。そのうちA、Bコースでは実際に和歌山大学生が同行し、皆様のおもてなしをさせていただきますので、この機会をぜひご利用ください。皆様のご参加をお待ちしております。

※今回すべての観光ツアーにイヤホンガイドをおひとり様ずつ、ご用意いたしました。「現地(語り部)ガイド」の説明や案内をしっかりと聞きいただけます。和歌山の観光を安心してお楽しみください。

申込方法

61ページの【観光ツアー】申込書兼確認書にご記入の上、宿泊・輸送センターにメールまたはFAXにてお送りください。

プラン一覧表

プラン	ツアー記号	出発地	出発時間	到着地	到着時間	プラン名	出発日		旅行代金 おひとり様 (税込)	ページ
							11/11 (月)	11/12 (火)		
日 帰 り プ ラ ン	A	和歌山駅	9:00	和歌山駅	15:00頃	語り部ガイドと紀州徳川五十五万石の城下町をめぐる 〔和歌山大学観光学部学生同行〕〔和歌山大学観光学部学生提案プラン〕	○	○	9,000円	43
	B	和歌山市駅	8:13	和歌山市駅	14:51	「南海電鉄 加太線」に乗って行く！語り部ガイドとめぐる加太・友ヶ島の旅 〔和歌山大学観光学部学生同行〕〔和歌山大学観光学部学生提案プラン〕	○	○	9,000円	44
	C	和歌山駅	8:30	橋本駅 和歌山駅	16:00頃 17:30頃	現地ガイド案内で世界遺産高野山と空海ゆかりの地をめぐる 〔和歌山大学観光学部学生提案プラン〕	○	○	11,500円	45
	D	和歌山駅	9:21	和歌山駅	17:00頃	「かわいい電車」に乗って行く！三毛猫スーパー駅長との出会いと語り部ガイドとめぐる紀北の名勝	○	○	10,500円	45
	E	和歌山駅	9:21	和歌山駅	15:00頃	「かわいい電車」に乗って行く！三毛猫スーパー駅長との出会いと語り部ガイドとめぐる万葉の和歌山	○	○	8,900円	46
	F	和歌山駅	9:00	和歌山駅	15:00頃	醤油の発祥地湯浅の町並み散策と紀州徳川家廟所長保寺を訪ねる	○	○	8,900円	46
	G	高野山	8:30	高野山	16:30頃	紀州徳川五十五万石の城下町をめぐる（語り部ガイド案内）	○	○	11,800円	47
	H	白浜駅 紀伊田辺駅	9:00 9:20	紀伊田辺 駅 白浜駅	16:00頃 16:30頃	武蔵坊弁慶ゆかりの田辺市町歩き・備長炭風鈴作り体験と梅酒作り体験	○	○	14,500円	47
	I	白浜駅 紀伊田辺駅	9:00 9:20 頃	紀伊田辺 駅 白浜駅	14:30頃 15:00頃	世界遺産熊野古道（中辺路）を語り部ガイドと歩く	○	○	9,000円	48
	J	紀伊勝浦駅	9:00	紀伊田辺 駅	16:30頃	世界遺産熊野古道を語り部ガイドと歩く熊野三社詣り	○	○	11,000円	48
1 泊 2 日 プ ラ ン	K	和歌山駅	9:30	橋本駅 和歌山駅	14:00頃 15:30頃	戦国の名将真田幸村ゆかりの地と世界遺産高野山をめぐる 1泊2日の旅	○		29,500円	49
	L	和歌山駅 紀伊田辺駅	8:30 10:00	紀伊勝浦駅	12:00頃	語り部ガイドと歩く、世界遺産熊野古道（中辺路）・熊野三社詣りと勝浦温泉1泊2日の旅 〔和歌山大学観光学部学生提案プラン〕	○	○	29,500円	50
	M	和歌山駅 御坊駅	8:30 9:30	橋本駅	14:30頃	人気のジャイアントパンダ&現地ガイドとめぐる世界遺産高野山美人の湯 龍神温泉1泊2日の旅	○	○	34,000円	51

利用予定バス会社は30～31ページを参照ください。

各コース紹介の写真はイメージです。

各コース紹介の行程中の記号は右記の通りです。 ●・・・下車観光 ★・・・入場観光 ■・・・車窓観光

図1 ねんりんピック2019参加者に配布された観光ツアー案内リスト



観光ツアーのご案内（募集型企画旅行）

日帰りプラン A

語り部ガイドと 紀州徳川五十五万石の城下町をめぐる

（和歌山大学観光学部学生同行）「和歌山大学観光学部学生提案プラン」

和歌山大学マスコットキャラクター
「わたにちゃん」

ここから語り部ガイド案内 徳川御三家の和歌山城を散策 徳川治宝の造園

和歌山駅 9:00出発 = 和歌山城（★わかやま歴史館・★天守閣・★紅葉渓庭園） = 養翠園

徳川光貞の隠居所 西国三十三ヶ所第二番札所

★湊御殿 = （昼食） = ★紀三井寺 = 和歌山駅 15:00頃着

コースのみどころ

八代将軍、吉宗を生んだ紀州徳川家。御三家のひとつとして栄華を誇りました。歴代藩主の居城として使われていたのが和歌山城です。天守閣からの眺めと城内の庭園を楽しんだあとは、十代藩主治寶が造営した養翠園へ。敷地面積7,000坪の珍しい「汐入(海水を取り入れている)」の大名庭園です。すぐ隣の二代藩主光貞の隠居所、湊御殿もご覧いただけます。西国三十三ヶ所第二番札所、紀三井寺も参拝し、境内から万葉歌人たちに愛された和歌の浦の絶景をお楽しみください。このコースを提案してくれた、和歌山大学観光学部の学生も同行いたします。

和歌山城（イメージ）



写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟

紅葉渓庭園（イメージ）



写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟

養翠園（イメージ）



写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟

出発日	11月11日(月)・11月12日(火)		
出発時間	和歌山駅 9:00発	食事	昼1回
到着時間	和歌山駅 15:00頃着	ご旅行代金	9,000円
最少催行人員	20名	添乗員	全行程同行
旅行代金に含まれるもの	貸切バス料金、食事代、入場（拝観）料（和歌山城天守閣・養翠園・湊御殿・紀三井寺）、観光ガイド料金、イヤホンガイドレンタル料、バス駐車料金、添乗員経費		

図2 「和歌山大学観光学部 学生提案プラン」 ツアー A の募集概要



観光ツアーのご案内（募集型企画旅行）

日帰りプラン B 「南海電鉄加太線」に乗って行く！ 語り部ガイドとめぐる加太・友ヶ島の旅

和歌山大学マスコットキャラクター
「わだにゃん」



（和歌山大学観光学部学生同行）「和歌山大学観光学部学生提案プラン」

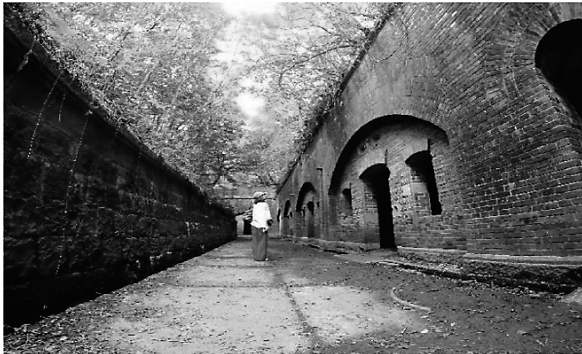
和歌山市駅 8:13発++加太駅・+加太港～～友ヶ島散策●（約2時間徒歩観光）～～加太港
南海電鉄 友ヶ島汽船 友ヶ島汽船
●●●●（昼食）●●●●★淡嶋神社●●●●●加太町並み歩き●●●●++和歌山市駅 14:51着
南海電鉄

注意事項：ご利用いただく列車は、定期列車利用で一般旅客と混乗となるため、お座りいただけない事がありますのでご了承下さい。
天災地変、事故等により運行ダイヤが乱れた際、運休（南海電鉄）、欠航（友ヶ島汽船）となる場合があります。

コースのみどころ

南海電鉄加太線に乗って、加太を訪問します。ラピュタっぽい遺跡として、SNSでも有名になった友ヶ島へご案内いたします。本物の無人島で冒険気分を味わってみてください。
雑流しで有名な淡嶋神社と、のんびりした漁師町の散策もお楽しみいただけます。
このコースには、プランを提案してくれた和歌山大学観光学部の学生も同行いたします。
※気象条件などにより、友ヶ島汽船が欠航になった場合は、船代金相当額をご返金のうえ、行程を割愛させていただきます。あらかじめご了承ください。

友ヶ島・砲台跡（イメージ）



写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟

友ヶ島（イメージ）



写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟

淡嶋神社（イメージ）



写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟

出発日	11月11日(月)・11月12日(火)	食事	昼1回
出発時間	和歌山市駅 8:13発	ご旅行代金	9,000円
到着時間	和歌山市駅 14:51着	添乗員	全行程同行
最少催行人員	20名		
旅行代金に含まれるもの	電車運賃、乗船料、食事代、観光ガイド料金、イヤホンガイドレンタル料、添乗員経費		

図3 「和歌山大学観光学部 学生提案プラン」 ツアーBの募集概要



観光ツアーのご案内（募集型企画旅行）

日帰りプラン C

現地ガイド案内で世界遺産高野山と 空海ゆかりの地をめぐる

「和歌山大学観光学部学生提案プラン」

和歌山大学マスコットキャラクター「わだにゃん」

世界遺産/高野参りの始まりのお寺 世界遺産/高野山と縁深い神社

和歌山駅 8:30発 = 電車 = **★慈尊院** = 電車 = **★丹生都比売神社** = 電車 = **高野山散策（■大門・昼食（精進料理）**
現地ガイドさんと世界遺産高野山散策
★金剛峯寺・●中ノ橋・★奥の院） = 電車 = **橋本駅 16:00頃着** = 電車 = **和歌山駅 17:30頃着**

コースのみどころ

空海開闢から1200年。世界遺産に登録され現在では世界中から人々が訪れる天空の聖地、高野山。今もなお生きていと信じられている空海の様々な伝説を体感いただけます。
 空海の御母堂が暮らした慈尊院、犬に化身して空海の道案内をしたと云われる神様を祀る丹生都比売神社など空海ゆかりの地も訪れます。

壇上伽藍（イメージ）

写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟

出 発 日	11月11日(月)・11月12日(火)		
出 発 時 間	和歌山駅 8:30発	食 事	昼1回
到 着 時 間	橋本駅 16:00頃着 和歌山駅 17:30頃着	ご旅行代金	11,500円
最少催行人員	25名	添 乗 員	全行程同行
旅行代金に含まれるもの	貸切バス料金、食事代、入場（拝観）料（金剛峯寺）、観光ガイド料金、イヤホンガイドレンタル料、有料道路通行料、バス駐車料金、添乗員経費		

図4 「和歌山大学観光学部 学生提案プラン」 ツアーCの募集概要

以上の参加学生の声より、本実践型教育プログラムが講義では学ぶことのできない実践教育の場を参加学生に提供できたことがうかがえる。特に、産学官連携といった点に関して、学生の評価は非常に高く、和歌山県庁という官の視点と旅行会社（宿泊・輸送センター）という民の視点の両側面からサプリメント観光ツアーの開発に取り組めたことは学生にとって非常に有意義な学びになったといえる。

Ⅲ. サプリメンタル観光ツアー参加者のツアー満足と心理的経験について（研究目的②）

1. 先行研究の検討

上記の本実践型教育プログラムを通して開発したサプリメント観光ツアーに参加した参加者のツアー満足と心理的経験の関連性について明らかにすることが、本研究の2番目の研究目的である。ツアー（旅行）満足と心理的経験、特に感情面との関連性については数多くの研究が報告されている（e.g., 林・藤原, 2012; Hosany & Gilbert, 2010）。例えば、林・藤原（2012）は、観光経験や観光動機に関わらず、旅行先での高覚醒の快感情（ポジティブ活性）が旅行満足にポジティブに関連することを報告している。この結果に関して、観光

旅行の根本的な意義が日常を脱することにあるため、高覚醒の快感情が高まることは旅行満足の成立にとって必要不可欠であるからだと林・藤原（2012）は考察している。

特に、近年では、スポーツツーリズム場面の感情経験として、Tsai et al.（2006）の感情評価理論が注目を浴びている（伊藤・彦次・山口, 2020; 伊藤・山口・高松, 2018）。感情評価理論では、覚醒面の次元から快感情を「高覚醒の快感情（HAP: High-Arousal Positive）」（e.g., 喜んでいる）と「低覚醒の快感情（LAP: Low-Arousal Positive）」（e.g., リラックスしている）の2つのカテゴリに分類している。この分類に関してはさほど新しい主張ではないが、感情には理想とする感情（ideal affect）と実際に経験している感情（actual affect）の2種類が存在するという指摘が、これまでにない感情評価理論の特有の知見である。理想の感情は文化によって形成された個人の嗜好である一方、実際の感情はその場で感じる感情や特定の事象に対する反応である（Tsai, 2007）。そのため、前者は特定の文脈とは切り離された目標（goal）となる感情経験であるが、後者は仕事やレジャーといったさまざまな文脈によって変化する感情経験である（Tsai, 2007）。また、本研究に最も関連深い点として、人々は理想の感情と実際の感情



観光ツアーのご案内（募集型企画旅行）

1泊2日プラン

語り部ガイドと歩く、世界遺産熊野古道（中辺路）
熊野三社詣りと勝浦温泉1泊2日の旅

（大洞窟風呂忘帰洞 ホテル浦島泊）「和歌山大学観光学部学生提案プラン」

和歌山大学マスコットキャラクター
「わだにゃん」



1日目/

和歌山駅 8:30発 = 紀伊田辺駅 10:00発 = ★熊野古道館

= ●牛馬童子像 = ●近露王子（昼食） = ●野中の一方杉

●継桜王子 = ★熊野本宮大社 = ★速玉大社 = 勝浦温泉 17:00頃着（泊）



牛馬童子像（イメージ）

2日目/

勝浦温泉 8:30発 = ●那智の滝 = ★熊野那智大社 = ★那智山青岸渡寺

●大門坂 = 大門坂駐車場 = 紀伊勝浦駅 12:00頃着

コースのみどころ

お泊りは、大変珍しい大洞窟露天風呂「忘帰洞」に入浴できる勝浦温泉「ホテル浦島」です。世界遺産「熊野古道」、その中で最も有名な中辺路を語り部ガイドさんと歩き、熊野三社を巡り、深い森の中から風光明媚な海辺まで、多種多様な世界遺産十ヶ所を訪れるお勧めのコースです。注意：このコースに参加される方は、履きなれた運動靴、山歩きの服装、雨具をご用意ください。

熊野古道（イメージ）



写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟

熊野古道、大門坂（イメージ）



写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟

出発日	11月11日(月)、11月12日(火)	食事	朝1回、昼1回、夕1回
出発時間	和歌山駅 8:30発 紀伊田辺駅 10:00発	ご旅行代金	29,500円（4～5名利用）、 30,500円（3名利用）、31,500円（2名利用）
到着時間	紀伊勝浦駅 12:00頃着	添乗員	全行程同行
最少催行人員	25名	宿泊施設	ホテル浦島 （和室/バスなし・トイレ付）
旅行代金に含まれるもの	貸切バス料金、宿泊代、食事代、観光ガイド料金、イヤホンガイドレンタル料、有料道路通行料、バス駐車料金		

図5 「和歌山大学観光学部 学生提案プラン」 ツアーLの募集概要

との間のギャップ (discrepancy) を小さくするために、観光などのさまざまな活動に影響することが明らかにされている (Tsai, 2007)。例えば、理想とする高覚醒の快感情が高い人は、休暇中に身体的負荷の高いピーチでのジョギングなど、高覚醒の快感情をもたらしやすい活動に参加する傾向にあることが報告されている (Tsai, 2007)。

スポーツツーリズムの文脈で感情評価理論を援用した伊藤ら (2020) は、高覚醒の快感情を高めるようなエンターテインメントを積極的に行っている Bリーグ大阪エヴェッサを事例として、プロスポーツイベント観戦者の理想とする快感情と再観戦意図の関連性を明らかにしている。階層的重回帰分析の結果より、大阪エヴェッサ観戦者の理想とする高覚醒の快感情が再観戦意図とポジティブに関連しており、理想の快感情は観戦者行動を予測する上で、重要な変数であることが指摘されている。また、ねりんピック 2019 同様、参加型スポーツイベント (サイクルスポーツイベント) を対象とした伊藤ら (2018) は、参加者の再参加意図・口コミと感情の関連性を明らかにしている。彼らも重回帰分析の結果より、理想とする高覚醒の快感情と再参加意図、およびゴール直後の高覚醒の快感情と再参加意図・口コミにはポジティブな関連性があることを報告している。これらの結果も、感情評価理論を支持するものであり、スポーツ大会参加者の理想の感情を知ることで、再参加意図といった将来のスポーツ参加行動をある程度予測できることを明らかにしている。しかしながら、林・藤原 (2012) の研究は実際 (旅行先) の感情、伊藤ら (2020) の研究は理想の感情、伊藤ら (2018) の研究は理想と実際の感情のみに焦点を当てているだけで、理想の感情と実際の感情のギャップに着目した研究は見当たらない。Tsai et al. (2006) の感情評価理論の理解をさらに深めていくためには、理想の感情と実際の感情のギャップとツアー満足との関連性を明らかにすることが求められる。そのため、本実践型教育プログラムを通して開発したサブプリメンタル観光ツアーの参加者に対し、以下の質問紙調査を実施した。

2. 調査方法

上述したねりんピック 2019 で実施したサブプリメンタル観光ツアーの参加者 160 名 (ツアー A31 名、ツアー C39 名、ツアー J64 名、ツアー L26 名) を対象に、各ツアー終了後に同行した学生もしくはツアー添乗員が、直接配布直接回収法を用いた質問紙調査を実施した。データクリーニング後 (欠損値をリストワイズ除去)、74 名の有効回答を以降の分析に用いた。

質問項目は、ツアー満足 6 項目 (林・藤原, 2012)、ツアー中の高覚醒および低覚醒の快感情各 3 項目 (Tsai et al., 2006)、理想とする高覚醒および低覚醒の快感情各 3 項目 (Tsai et al., 2006)、個人属性 (性別、年齢、配偶関係) を尋ねた。ツアー満足および感情項目については 5 段階尺度を用いた。ツアー中の感情については、「以下の 6 つの感情

を今回のツアーでどの程度感じましたか?」と尋ね、理想の感情については、「以下の 6 つの感情を普段の日常生活においてどの程度理想的に感じたいですか?」と尋ねた。具体的に 6 つの感情とは、高覚醒の快感情である「熱中」、「興奮」、「喜び」と、低覚醒の快感情である「落ち着き」、「穏やかさ」、「リラックス」であった。

分析方法として、記述統計 (平均値、標準偏差、アルファ係数) を算出した後、理想とする感情とツアー感情の差を算出し、両種類の感情のギャップをもとめた。その後、ツアー満足に従属変数、2 種類の感情のギャップを独立変数、性別と年齢を制御変数とする重回帰分析を行った。

3. 結果と考察

最終サンプルの 74 名 (ツアー A19 名、ツアー C4 名、ツアー J38 名、ツアー L13 名) の平均年齢は 67.9 歳であり、男性 37 名 (50.0%) と女性 37 名 (50.0%) であった。配偶関係については、有配偶が 62 名 (83.8%)、死別・離別が 8 名 (10.8%)、未婚 2 名 (2.7%) であった (無回答 2 名)。記述統計結果は、表 1 に示した。

表 1. 記述統計の結果

	M	SD	Alpha
ツアー満足	3.73	0.75	.92
このツアーは期待以上のものだった	3.84	0.81	
このツアーを心から楽しむことができた	3.89	0.89	
このツアーは自分にとって価値のある経験だった	4.07	0.82	
このツアーは払った費用に見合うだけのものだった	3.78	0.91	
同じツアー (旅行) に再び行きたいと思う	3.26	0.97	
同じツアー (旅行) を友人にも勧めたい	3.55	0.97	
ツアー中の高覚醒の快感情	3.55	0.75	.82
熱中	3.47	0.97	
興奮	3.38	0.82	
喜び	3.78	0.83	
ツアー中の低覚醒の快感情	3.46	0.78	.87
落ち着き	3.24	0.87	
穏やかさ	3.57	0.81	
リラックス	3.58	0.92	
理想とする高覚醒の快感情	3.75	0.75	.88
熱中	3.78	0.76	
興奮	3.57	0.81	
喜び	3.91	0.92	
理想とする低覚醒の快感情	3.81	0.77	.92
落ち着き	3.72	0.84	
穏やかさ	3.88	0.81	
リラックス	3.84	0.84	

重回帰分析の結果を表2に示した。分析結果から、理想とする高覚醒の快感情のギャップとツアー満足にネガティブな関連性が認められた。言い換えると、理想とする高覚醒の快感情のギャップが小さくなればなるほど、つまりツアー中の感情が理想とする感情に近づけば近づくほど、ツアー満足が高まることが明らかとなった。一方で、理想とする低覚醒の快感情のギャップに関しては、ツアー満足との関連性は認められなかった。この結果は、調査対象者がねりんピック2019の参加者であったためだと考えられる。ねりんピック2019のようなスポーツイベントに参加するアクティブな高齢者は、サブプリメンタル観光ツアーにも高覚醒の快感情を求め、ツアー中に高覚醒の快感情のギャップが小さくなることでツアーに満足することが示唆された。伊藤ら(2020)の観戦型スポーツイベントと伊藤ら(2018)の参加型スポーツイベントの研究においても、高覚醒の快感情の方が低覚醒の快感情よりも、再参加/観戦意図を予測する上で重要であるという、スポーツイベント参加者/観戦者の特徴を本研究でも再確認する結果となった。これらの結果から、参加型スポーツイベントの参加者を対象としたサブプリメンタル観光ツアーのプログラムには、高覚醒の快感情のギャップを小さくする仕掛けづくりが重要になると考えられる。具体的には、今回のツアーJとLでは熊野古道を歩くという、身体的負荷のあるプログラムが組み込まれていた。実際に、長野・伊藤(2018)は、熊野古道を歩くことで高覚醒の快感情が上昇することを報告している。また、ツアーAとCでも、それぞれ紀三井寺や高野山の多くの階段を上り、名所旧跡を見て回るというプログラムになっていた。今回の参加者は平均67.9歳という高齢者だったことから、ツアーAとCのプログラム内容でも十分に高覚醒の快感情のギャップを小さくできていたのだと考えられる。

表2. 重回帰分析の結果

	M	SD	Beta	t-value	VIF
性別			0.17	1.48	1.10
年齢			0.01	0.08	1.02
高覚醒快感情のギャップ	0.21	0.78	-0.33	-2.48*	1.47
低覚醒快感情のギャップ	0.35	0.96	-0.11	-0.80	1.50
R^2				.11*	

* $p < .05$

IV. 結論

本実践論文では、ねりんピック推進課および宿泊・輸送センターの協力を得て実施した実践型教育プログラムにおいて、①ねりんピック2019サブプリメンタル観光ツアー開発とツアー同行について報告すること、②ねりんピック2019サブプリメンタル観光ツアー参加者のツアー満足と心理的経験について明らかにすること、の2点を研究目的とした。研究目的①に関して

は、2年間の実践型教育プログラムを通じたサブプリメンタル観光ツアーの開発プロセス・ツアー同行内容ならびに参加学生のプログラム評価を報告した。学生のプログラム評価からもうかがえるように、本プログラムを通して、講義形式の授業では学ぶことのできない実践的知識を得られたことが明らかになった。特に、本実践型教育プログラムでは産学官が連携して、プログラムを実践したことが大きな特徴であった。和歌山県庁の官の視点(地域目線)だけではなく、旅行会社(宿泊・輸送センター)の産の視点も踏まえ、学生がサブプリメンタル観光ツアーを開発し、ツアー同行できたことは非常に意義のあるプログラム内容だったと言える。

研究目的②に関しては、学術的視点からサブプリメンタル観光ツアー参加者のツアー満足および心理的経験の関連性について精査した。感情評価理論に基づくスポーツツーリズム研究で報告されてきた通り、高覚醒の快感情がツアー満足を高めるために重要であることが本研究結果においても示唆された。参加型スポーツイベントのサブプリメンタル観光ツアーには、高覚醒の快感情のギャップを小さくする仕掛けを組み込んだツアー開発が求められる。マラソン大会などの参加型スポーツイベントが全国各地で増加しているが、サブプリメンタル観光ツアーのように、大会参加だけで終わらせずに、開催地の観光につながる仕組みづくりがスポーツツーリズムを通じた地域再生・活性化(Hinch & Ito, 2018)に必要不可欠である。今後は、和歌山県を開催地に含むワールドマスターズゲームズ関西2021が2021年5月に開催される予定である。国内参加者3万人、国外参加者2万人を見込むこの国際的参加型スポーツイベントでも、サブプリメンタル観光ツアーを通じた地域活性化や文化交流が期待される。

最後に、今回の特集テーマである「地域に学ぶ観光教育・研究の実践」からうかがえるように、観光教育と観光研究は地域と密接に関連している。観光の実践の現場は地域であり(一部はインターネットなどの仮想空間であるが)、観光教育とはその現場で貢献できる人材を養成するプログラムのことである。そして、観光研究は、肯定的・否定的な結果に関わらず、その現場に役立つ知見や視座をもたらすことを最終目標として行われる。重要なことは、地域は多種多様であり、地域のレベル(e.g., 都道府県 vs. 市区町村)によっても特徴が異なるということである。ある地域で効果的であった観光教育が、他の地域ではそうでないことも普通に考えられる。ある地域で採択された仮説が、他の地域では棄却される可能性も十分に考えられる。対象となる地域の特徴を理解したうえで観光教育と観光研究が求められ、そのような地域というレンズを通じた教育と研究が、今後の持続的可能な観光開発の一翼を担うのである。

謝辞

本教育実践プログラムの機会をご提供くださった、和歌山県福祉保健部福祉保健政策局ねんりんピック推進課の西川様、中野様、小笠原様、尾花様、ねんりんピック紀の国わかやま2019 宿泊・輸送センターの下神様、福森様に感謝の意を表します（所属は当時のもの）。加えて、会議や現地視察にご協力くださった和歌山県教育委員会生涯学習局スポーツ課（当時、和歌山大学大学院観光学研究科所属）の児嶋様に感謝申し上げます。

引用文献

- Chalip, L. (2006). Towards social leverage of sport events. *Journal of Sport & Tourism*, 11 (2), 109-127.
- Chalip, L., & McGuirly, J. (2004). Bundling sport events with the host destination. *Journal of Sport & Tourism*, 9 (3), 267-282.
- Getz, D., & Page, S. J. (2016). *Event studies: Theory, research and policy for planned events* (3rd ed.). Routledge.
- 林幸史, 藤原武弘 (2012) 観光地での経験評価が旅行満足に与える影響: 観光動機と旅行経験の観点から. 関西学院大学社会学部紀要, 114, 199-212.
- Hinch, T., & Ito, E. (2018). Sustainable sport tourism in Japan. *Tourism Planning and Development*, 18 (1), 96-101.
- Hosany, S., & Gilbert, D. (2010). Measuring tourists' emotional experiences toward hedonic holiday destinations. *Journal of Travel Research*, 49 (4), 513-526.
- 厚生労働省 (n.d.) 全国健康福祉祭 (ねんりんピック) の概要. <https://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/nenrin/gaiyo.html>
- 工藤康宏, 野川春夫 (2004) スポーツイベント開催に伴うサブプリメント観光に関する研究. 生涯スポーツ学研究, 2 (1), 15-21.
- 伊藤央二 (2020) ポスト東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のスポーツツーリズム政策. 観光学評論, 8 (1), 45-53.
- 伊藤央二, 彦次佳, 山口志郎 (2020) スポーツイベント観戦者の理想とする快感と再観戦意図の関連性について: Bリーグ大阪エヴェッサの観戦者に着目して. スポーツ産業学研究, 30 (2), 207-213.
- 伊藤央二, 山口志郎, 高松祥平 (2018) サイクルスポーツイベントの再参加意図と口コミにおける感情評価理論の援用. 生涯スポーツ学研究, 15 (2), 15-22.
- Ito, E., Walker, G. J., & Mannell, B. (2018). Discrepancies between Japanese undergraduate students' ideal affect and actual affect in social contexts and life domains. *International Journal of the Sociology of Leisure*, 3, 227-240.
- 児嶋恵伍, 伊藤央二, 吉村実佳, 藤森美月, 坂本直斗 (2019) 日本人国外スポーツツーリストのサブプリメント観光行動に関する阻害要因: アジアパシフィックマスターズゲームズ 2018 ベナン大会の日本人参加者の事例研究. 観光学, 21, 27-34.
- Mannell, B., Walker, G. J., & Ito, E. (2014). Ideal affect, actual affect, and affect discrepancy during leisure and paid work. *Journal of Leisure Research*, 46 (1), 13-37.
- 長野慎一, 伊藤央二 (2018) 熊野古道を歩くことがもたらす多局面にわたる感情経験について. 生涯スポーツ学研究, 15 (1), 11-23.
- ねんりんピック紀の国わかやま 2019 宿泊・輸送センター (2019) 宿泊・弁当・交通・観光のご案内.
- ねんりんピック紀の国わかやま 2019 大会実行委員会 (2020) 第 32 回全国健康福祉祭和歌山大会 ねんりんピック紀の国わかやま 2019 大会報告書.

- Nogawa, H., Yamaguchi, Y., & Hagi, Y. (1996). An empirical research study on Japanese sport tourism in sport-for-all events: Case studies of a single-night event and a multiple-night event. *Journal of Travel Research*, 35 (2), 46-54.
- Tsai, J. L., Knutson, B., & Fung, H. H. (2006). Cultural variation in affect valuation. *Journal of Personality and Social Psychology*, 90 (2), 288-307.
- Tsai, J. L. (2007). Ideal affect: Cultural causes and behavioral consequences. *Perspectives on Psychological Science*, 2, 242-259.

受理日 2020年6月11日